



はじめに

美しい手書きのアルファベット、カリグラフィー。

デジタルが当たり前の時代では、手書きは効率の悪いことかもしれません。

そんな中、カリグラフィーを学ぶ理由はなんでしょうか？

その一つは、カリグラフィーに触れることで、歴史的、芸術的な感性を高められることにあります。本テキストで学ぶカッププレート体・イタリック体・ゴシック体の3書体は、長い歴史の中で受け継がれてきました。カリグラフィーを書くことで時代背景に親しみをもてるようになります。美しい文字を書くことは、普遍的な美に近づく方法の一つです。

また、カリグラフィーを学ぶことは、自分の時間を大切にすることにつながります。新しい技術の習得は大きな喜びであり、「上手になりたい」という向上心が芽生えてくるものです。



カリグラフィーをマスターするためのファーストステップは、専用のつけペンなど、アナログの道具の特性を理解することです。

テキストでは基本の線、小文字、大文字、フレーズ、アレンジと進みます。最初はまっすぐな線を引くだけでもなかなかうまくいかないかもしれません。難しいところは、見本と見比べて、自分が書いたものとどこが違うのかを確認しましょう。たくさん書くことよりも、観察することが上達への早道です。

文字を書くことに慣れてきたら、カード作りなどクリエイティブな作業に挑戦するのもおすすめです。ハンドメイドが苦手な方でも、テキストにある手順や技法を参考にすれば、作品づくりのコツがつかめます。



カリグラフィーは一生楽しめる趣味であり、お仕事にも活かすチャンスがあります。このテキストが皆様にとって新しい技術習得の力になることを、心から願っています。

カリグラフィーファクトリー ひがしはまね





Contents

はじめに	3
学習の進め方	6

Part 1 カリグラフィーの基本

カリグラフィーについて	8
使用するペン・道具	10
ペンの扱い方・持ち方	12
ペン先の角度と線の太さ	14
カリグラフィーの用語	15

• Column1 • インクが出ないとき

Part 2 書体① カッパープレート体

書体のルールと基本の線	18
小文字◎特徴的な文字	19
小文字◎アルファベット一覧	20
大文字◎特徴的な文字	21
大文字◎アルファベット一覧	22
文字をつなげる練習をしよう	23
フレーズを練習しよう	24
応用レッスン◎モダンカリグラフィーについて	26
応用レッスン◎アルファベット一覧	27
応用レッスン◎フレーズを練習しよう	29

• Column2 • ペン先の種類



Part 3 書体② イタリック体

書体のルールと基本の線	32
小文字●特徴的な文字	33
小文字●アルファベット一覧	34
大文字●特徴的な文字	36
大文字●アルファベット一覧	37
フレーズを練習しよう	39

• Column3 • カリグラフィーの種類

Part 4 書体③ ゴシック体

書体のルールと基本の線	44
小文字●特徴的な文字	45
小文字●アルファベット一覧	46
大文字●特徴的な文字	48
大文字●アルファベット一覧	49
フレーズを練習しよう	51

巻末 オリジナルカードの作り方

作品づくりの手順	56
カリグラフィーのアレンジ	58



学習の進め方

Step 1

学習スケジュールを立てる

テキストの学習を始める前に、講座全体の学習スケジュールと、それぞれの書体の学習予定日を決めましょう。学習期間の目安は、1書体につき1か月程度です。

Step 2

各単元の学習を行う

①で立てたスケジュールに沿って、無理のないペースで学習を進めていきましょう。

学習では、テキストと練習帳を一緒に使用します。テキストの解説に沿って、実際に練習帳で書いてみましょう。付属のペンとインクを使い、ペンの使い方に慣れるところから始めます。難しいところや大切なポイントは、動画でも学べるようになっているので、テキストのタイトル横にあるQRコードにアクセスしてみてください。

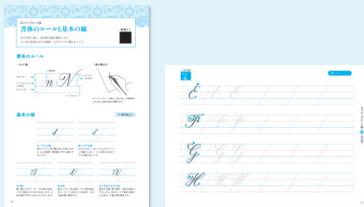
Step 3

課題を提出する

テキスト学習が終了したら、提出課題に取り組みます。すべての設問に解答し終わったら、期日までに提出してください。

セット内容の確認

●テキスト・練習帳



テキストの解説に沿って、実際に練習帳で書いてみましょう。

●提出課題

学習したポイントをどれだけおさえられているかを確認するための課題です。

●ペン先 (2種類)、ペン軸 (2種類)、インク (ブラック)

カリグラフィーを始めるにあたり必要な道具をそろえました。

●下敷き (ガイド線・書体見本)

自主練習や作品作りで使用します。下敷きは薄地の紙の下に敷き、ガイド線を使って練習します。書体見本の下敷きは、なぞり練習をしたりお手本として活用できます。

Part

1

カリグラフィーの基本

文字の練習を始める前に、カリグラフィーの歴史や道具、基礎知識について学びましょう。つけペンは難しいこともあるかもしれませんが、動画も参考にしてゆっくり慣れていきましょう。

カリグラフィーの基本

カリグラフィーについて

カリグラフィーの歴史は古く、時代の移り変わりとともに数多くの書体が生み出されました。この講座では3つの書体をピックアップし、学習していきます。

カリグラフィーとは

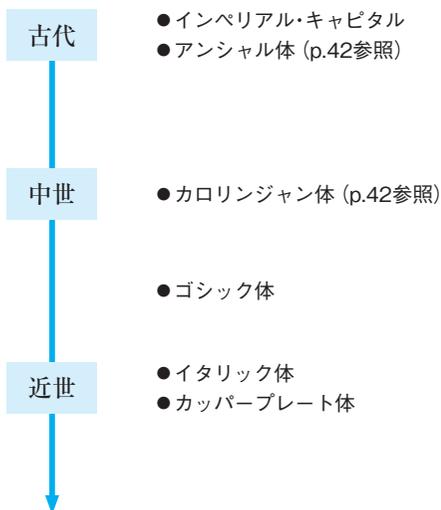
カリグラフィーは、ギリシャ語の「美しい書き物」を意味する言葉が語源とされています。その名のとおり、美しいアルファベットを書くための技術のことで、西洋の書道といわれることもあります。その歴史は古く、2000年以上前、ローマ時代の碑文に彫られたインペリアル・キャピタルという書体が始まりとされています。

IMPERIAL

アルファベットの基本となったインペリアル・キャピタル。詳しくはp.42を参照

カリグラフィーの書体はいくつもあります。大文字のみの書体から小文字体の登場を経て、写本文化とともに広まったゴシック体や、ルネサンス期のイタリック体、銅版印刷の発展とともに生まれたカッパープレート体など、時代の変化とともに数多くの書体が誕生しました。

・カリグラフィーの代表的な書体





この講座で学ぶ書体

この講座では、現代でも人気が高く、初心者でも取り組みやすい、銅プレート体・イタリック体・ゴシック体の3書体を学びます。なお、本テキストでは習得のしやすさを優先し、時代をさかのぼる順番で扱います。

銅プレート体

Profile

17世紀ごろから、商業用や書簡用の事務書体として広まりました。先がとがったペン先で筆記体のように文字をつなげて書きます。優美なカーブや装飾の華やかさから、ウェディングアイテムなどによく使用されています。近年人気が高いモダンカリグラフィーは、この書体をアレンジして書くことができます。

Part

1

カリグラフィーの基本

イタリック体

Enjoy!

ルネサンス期に誕生し、ローマ教皇庁に公文書体として採用された書体です。四角く幅があるペン先を使用し、ペン先の角度を一定に保ちながら書きます。比較的シンプルで読みやすくアレンジの幅も豊富です。まずは大きめに書くことでペンの扱いに慣れていきます。

ゴシック体

Welcome

中世後期に最も栄えた書体で、文字幅が狭く全体が黒く見える特徴から、別名「ブラックレター」とも呼ばれています。装飾性が高く重厚な雰囲気があるので、イベントやお祝いごとなど、少しあらたまった機会に使うと映えます。3書体の中でもっとも難易度が高い書体です。

カリグラフィーの基本

使用するペン・道具

付属のペンとインク、そのほかカリグラフィーを始めるにあたって必要な道具を紹介します。

ペン先（ニブ）

金属製のペン先を、専用のペン軸につけて使用します。とがったペン先（ポイントドニブ）と四角い形をしたペン先（スクエアニブ）があります。書体によって使い分けましょう。この講座では、スクエアニブは初心者でも書きやすい3mm幅のものを用意しています。



ポイントドニブ

この講座では銅プレート体で使用。力を加えることでペン先が開いて太い線が書けます。



スクエアニブ

この講座ではイタリック体・ゴシック体で使用。先が四角く、背面にインクを溜めるパーツがあります。

ペン軸

ポイントドニブをセットするペン軸（オブリック〈オブリーク〉ホルダー）と、スクエアニブをセットするまっすぐな形のペン軸（ストレートホルダー）があります。ペン先とペン軸は別々に保管し、使用するときにはセットします。



オブリックホルダー（上）、ストレートホルダー（下）

インク・絵の具

この講座ではインクを使用します。カリグラフィー用のインクもありますが、水性インクであれば、専用のものでも構いません。不透明水彩絵の具（ガッシュ）で書くこともできます。



インク（黒）

のびがよく、ペン先が詰まりにくい水性のものを選ぶとよいでしょう。紙との相性も大切です。



不透明水彩絵の具（ガッシュ）

絵の具で書く場合は、絵皿に出して水で溶き、絵筆を使ってペン先に絵の具をつけて使用します。

紙

ペン先が引っかかりにくく、インクがにじまないものを選びましょう。練習用紙は、ガイド線が透ける紙を選び、付属のガイド線の下敷きの上にセットして練習します。作品用紙には、厚みがある水彩紙がおすすめです。作品をつくる際は、鉛筆でガイド線を引きます。

- ・練習用紙におすすめの紙
コピー用紙（家電量販店などに売っているもの）
トモエリバーS / 三善製紙
- ・作品用紙におすすめの紙
・ヴィフアール水彩紙（細目） / maruman
・アルシュ水彩紙（細目） / maruman

その他の道具

ペンとインク以外にも、下で紹介する道具があると練習がしやすくなります。道具をそろえたら、机にセッティングしてカリグラフィーを書く準備をしましょう。

